

やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY



Wikimedia Commons : スイレン

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌 VOL.14

JICA 中小企業海外展開 支援事業に関する情報交換会

- ◆日時＝平成27年11月20日
- ◆会場＝東根市商工会館
- ◆主催＝協力隊を支援するやまがた地球家族の会、協力隊を育てる会、JICA
- ◆参加企業＝(株)クリーンシステム、(株)山本製作所、軽部草履(株)、ソーラーワールド(株)、アイタックル、ワテック(株)、(株)齋藤管工業、大商金山牧場、安藤組、山形銀行、荘内銀行、NPO 法人 I V Y、山形工業技術センター、東根市役所、山形新聞。



11月20日(金)、東根市商工会会議室において「JICA 中小企業海外展開支援に関する情報交換会」が開催されました。これまで「企業懇談会」として9回、その後現在の名称で2013年の山形市、2014年の米沢市と2回開催してきました。製造業や自然エネルギー、農業分野など多岐に渡る14の企業・団体から19名のご参加を得ました。その他、主催側としてJICA 東北から村瀬支部長、佐藤カウンセラー、三澤国際協力推進員、協力隊を育てる会から松岡常任理事、山形県青年海外協力協会から吉田理事、やまがた地球家族の会から酒井会長始め7名が参加し、山形新聞東根支社も加わって合計32名での情報交換会となりました。

今年の特徴としては、ジョージアで案件化調査を実施している(株)クリーンシステム様、残念ながら不採択にはなりましたが本事業に応募経験のある軽部草履(株)様、海外から研修生を受け入れている(株)タックルファーム様、東根工業高校の光プロジェクトでバングラデシュでの活動経験のあるソーラーワールド(株)様など、海外展開志向の強い企業様の参加を得られたことにあると思います。

来年に向けても開発途上国側のニーズを吟味したうえで、参加可能性企業、関心企業様に声がけをすることを続けていきたいと考えております。

JICA 支援事業の事例として(株)クリーンシステム様から、ジョージア(旧グルジア)で展開する混合廃棄物のリサイクル技術の事業化に向けた可能性を探る案件化調査の状況が報告されました。再生処理施設の不足などの課題もありつつ、「リサイクルの重要性を広めるためにも、更なるステップに進みたい」と力強く決意を述べておられました。

本事業は、利益だけを追求する海外展開ではないだけに、企業にとってはハードルが高いものではあります。WIN-WINの海外展開が可能であると思われまますので、調査から実証・普及に進んでいけるような成功事例を積み上げていくことをJICAには期待したいものです。

青年海外協力隊員OB・OG採用についての質問が複数企業よりあったことから、帰国隊員支援としても本情報交換会は大変有用であったと思われまます。

なお、2016年度は11月に鶴岡市で開催予定です。関心のある企業・団体のご参加を心から歓迎いたします!

◆寄稿: YOCAと「余暇」

榎 正智・山形県青年海外
協力協会 会長



編集長から「やまがた地球家族」でYOCAを紹介せよ、との依頼を受けた。そのやり取りの中で、「そもそもYOCAどんな組織なの。協力隊を支援するやまがた地球家族の会とどう違うの。」と素朴な疑問を持っていらっしゃる方がいるかもしれないという話題が上がった。そこで、改めてこの機会にYOCAについて述べたいと思う。

「ヨカ」と聞いて多くの人が真っ先に頭に浮かぶのは「余暇」という文字ではないだろうか。国語辞典によると「余った暇な時間。仕事の合間などの自由に使える時間」という意味である。「余暇」をもう少し調べてみると、「余暇＝人が自分自身を取り戻し、また活発に仕事や家庭での雑事に立ち向かうための活力を養うためのもの(Wikipedia)」と書いてあった。JICA ボランティア(青年海外協力隊、日系ボランティア、シニアボランティアの総称)として活動してきた私たちにとってYOCAでの活動は、現地で培ってきた自分自身を日本の生活の中で取り戻し、国内にその経験を還元していこうというものである。「ヨカ」という響きの二つの文字はその意味において「余暇」＝「YOCA」と結びつけられるのかもしれない。

(もしかして、諸先輩方はそこまで計算に入れていたのだろうか・・・)

さて、話がそれてしまったが、YOCAの正式な名称は山形県青年海外協力協会(Yamagata Overseas Cooperation Association)である。青年海外協力隊OVが会員となり、今年で41年目を迎える。1965年に始まった青年海外協力隊から10年後の1975年に青年海外協力隊山形県OB会(佐藤昭一会長)が発足し、OB会として隊員の後方支援だけでなく、県内外で青年海外協力隊活動の広報や国際理解、国際交流へ推進のために活動を行ってきた。2002年にはNPO法人となり、現在に至っている。また昨年度は、新隊員の壮行会、派遣中の隊員への山形ギフトの送付、県海外技術研修員への日本語研修、JOCV50周年記念式典in山形等の事業を行うことができた。今後もOVとしての自分自身を取り戻すために「余暇」を紡ぎだし、「YOCA」として活動していきたいと思う。

最後に、いつも企業懇談会の開催や山形県へ採用要望をしてくださっている「協力隊を支援するやまがた地球家族の会」のみなさんにこの場を借りて感謝をお伝えしたい。YOCAの課題は、青年海外協力隊経験者が山形県内で就職し、一緒に活動できる仲間を増やしていくことであり、その解決につながる活動を長年続けておられることは、私たちYOCAにとって非常に心強い。

今後も「協力隊を支援するやまがた地球家族の会」と協力しながら、国際交流分野をはじめとした活動で山形県を盛り上げていきたい。

《平成27年度 協力隊を支援するやまがた地球家族の会 事業報告》

期 日	事 業	会 場/参加者
H27年6月 6日	定例総会/事業報告、決算報告、事業計画、予算の承認、役員改選 帰国報告(ブルキナファソ、ウガンダ)	於:出羽庄内国際村/22名
6月23日	27年度1次隊 表敬訪問並びに壮行7名(カンボジアへのシニア隊員) (モロッコ、ウガンダ、インドネシア、ルワンダ、中華人民共和国、ミクロネシアへの青年協力隊員)	於:県庁/11名
9月24日	27年度2次隊 表敬訪問並びに壮行4名 (マダガスカル、エチオピア、ニカラグア、ペルーへの青年協力隊員)	於:県庁/7名
11月20日	中小企業海外展開のための企業情報交換会 JICA、育てる会の報告、企業等14団体との意見交換	於:東根市商工会館/31名
12月22日	27年度3次隊 表敬訪問並びに壮行1名(マラウイへの青年協力隊員)	於:県庁/5名
H28年2月27日	ボランティア家族懇談会及び帰国報告会、国際協力エッセイコンテスト受賞者の作文朗読 帰国報告(コロンビア、ガーナ)	於:大手門パルズ/33名
3月16日	27年度4次隊 表敬訪問並びに壮行2名(ネパール、バヌアツへのシニア隊員)	於:県庁/6名

※ 6月6日 - 機関紙発行 ※ 書籍「世界が舞台」の発行 ※ 育てる会のカレンダーの作成並びに会員への送付

「協力隊を育てる会」総会

2016年5月26日(木) TKP市ヶ谷カンファレンスセンターにおいて第41回一般社団法人「協力隊を育てる会」通常総会が開催され、当会から富樫事務局長が出席しました。

「協力隊を育てる会」は協力隊事業に対する民間の支援の輪を広げていくことを目的として昭和51年(1976年)4月に発足。全国各地に支援組織が結成されており、当会もその1つです。本年2月、神奈川県に全国で48番目となる「神奈川県青年海外協力隊支援協会」が設立され、全都道府県に支援体制が整いました。今回の総会では、10年間に渡って「育てる会」をリードしてきた足立会長が勇退され、山本保博・元顧問が会長に就任。また「情報ライブミヤネ屋」のコメンテーターとしても知られるジャーナリストの岩田公雄氏をはじめ3名が新しく理事に就任なさいました。

『隣人を助けるボランティアの精神』— インドのゴッドファーザーに学ぶ、人との関わり方—と題して、江戸川インド人会会長のジャグモハン S. チャンドラニさんの講演がありました。2万人といわれる在日インド人にとって「ゴッドファーザーのような存在」と呼ばれており、約1割の2千人がチャンドラニさんを慕って西葛西で暮らしているそうです。2000年以降、IT技術者など日本に駐在するインド人が増加し、彼らの多くが住居の確保や食事など様々な面で困難に直面していました。異国の地で同胞のために奔走するチャンドラニさんの姿は、派遣先で試行錯誤しながら活動する協力隊員たちと重なるものがあります。講演を通して、異文化共生へのヒントをたくさん頂きました。



祝！協力隊50周年『世界とともに』

2015年12月12日(土) 山形テルサにおいて青年海外協力隊50周年記念イベント『世界とともに』が開催され、山形県から後藤・国際室室長補佐、山形新聞社から深山・常務取締役編集局長、佐藤・山形県国際交流協会常務理事、村瀬・JICA東北支部長などの来賓を含めて約70名がご参加。



山形県青年海外協力協会(YOCA) 榎正智会長をコーディネーターに、協力隊OBの須貝理美(ニカラグア)さん、尾形敦美さん(バングラデシュ)、菅原暢文さん(コロンビア)がパネルトーク。ルワンダに派遣中の佐藤昂洋隊員と会場をスカイプで繋ぐコーナーでは、現地の人とリアルタイムに対話したり、佐藤隊員のご両親がカメラに向かって話をする場面も。歴代のYOCA会長も勢ぞろいし、本県における協力隊の歴史の厚みを実感しました。



『世界が舞台』待望の発刊！！

毎週土曜の山形新聞に掲載されている「世界が舞台～活躍する県人～」欄をご存知でしょうか。

2007年3月から続く長寿連載で、山形県出身あるいは山形県にゆかりのあるJICAボランティアが現地から寄せたレポートです。2016年1月までに、335回、計138名のJICAボランティアからの寄稿が掲載されました。

2015年、青年海外協力隊が発足して50周年になったことを記念して、75名の寄稿記事をまとめた書籍が山形新聞社より発行されました。42ヶ国からの現地レポートには、それぞれの任地での活動内容や現地の人々との心のふれあい、葛藤などが生き生きと描かれています。県内の主要書店でお求めください。



「世界が舞台～活躍する山形県人～」(発行:山形新聞社) A5判/183ページ/価格1,500円(税込)

■ JICA 国際協力中高生 エッセイコンテスト 2015 入賞おめでとう!

山形県では 5 名が個人賞に、4 校が学校賞に入賞。



2016年2月27日(土) JICA 中学生・高校生国際協力エッセイコンテスト 2015 の表彰式が大手門パルズ(山形市)で開催されました。今回のテーマは「世界を知ろう! 考えよう! ~よりよい世界のために私たちができること」。山形県内からは中学生の部 380 通、高校生の部 423 通の応募があり、5 名が個人賞に入賞、4 校が学校賞を受賞しました。おめでとうございます!



★独立行政法人国際協力機構 東北支部長賞

【ナマステ、ネパール】

長澤パティ明寿さん/山大附属中学校 2年

【「移民」と生きる】

秋葉 優佳さん/山形西高等学校 3年

【みんな一緒にしょ?】

井上 砂城さん/鶴岡北高等学校 1年

★佳作

【たくさんの目と心を育てるために】

新美 景司さん/東根市立第一中学校 3年

【背を向けないで】

後藤 彪吾さん/鶴岡東高等学校 1年

★特別学校賞

県立鶴岡北高等学校

★学校賞

山形市立第五中学校

川西町立川西中学校

県立楯岡高等学校



エッセイ
コンテスト
表彰

←学校賞メダル

青年海外協力隊創設 50 周年記念事業 映画『クロスロードー Crossroads』



2015年、青年海外協力隊事業の50周年を記念して青年海外協力協会(JOCA)が、協力隊を題材にした映画『クロスロードー Crossroads』を製作しました。

2013年に協力隊に関するエピソードを募集した後、映画のためのシナリオを募集し、2014年1月に大賞を発表しました。監督は『マリリンに逢いたい』のすずきじゅんいちさん(昭和60年度2次隊・モロッコ・映像)、シナリオコンテスト入賞作を基に脚本を監修したのは『闇金ウシジマ君』『映画 ひみつのアッコちゃん』の脚本を手がけた福間正浩さん(平成2年度3次隊・セネガル・視聴覚教育)と、主要スタッフを協力隊OBが務めています。

2015年11月28日(土)から全国公開され、山形県内では12月26日~1月8日、ムービーオンやまがた(山形市)で上映されました。EXILEの黒木啓司さんの初主演作としても注目を集め、協力隊事業への関心を高める効果があったと思われます。

2016年度中に鶴岡市での上映を予定していますので、乞うご期待!

■『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』 入会のご案内

【会費】 ●個人会員 = 3000円 ●家族会員 = 1000円(個人会員の家族)

●学生会員 = 1000円 ●団体会員 = 10000円(企業及び団体)

【会員特典】 JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える!

「国際ボランティアマガジン 月刊『クロスロード』」を、年間購読料 5000 円のところ、希望する会員には 2000 円の送料手数料のみで 1 年間 12 冊ご提供いたします。

☆お問い合わせ/ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族 VOL.14 平成 28 年 6 月 4 日発行 (第 14 号) 発行人/酒井忠久

発行/〒 999-7725 山形県庄内町沢新田 151 富樫方 『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局

TEL&FAX) 0234-42-1458 (富樫)

E-mail) info@chikyukazoku.net Website) http://www.chikyukazoku.net/